

東北地方 1か月予報

(10月11日から11月10日までの天候見通し)

平成15年10月10日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

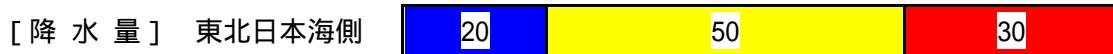
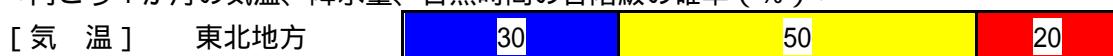
向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、気温の変動が大きいでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は東北日本海側は平年並か少なく、東北太平洋側は平年並でしょう。

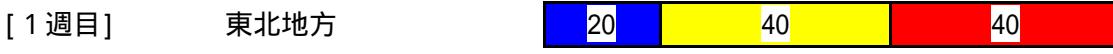
週別の気温は、1週目は平年並か高い、2週目は平年並、3~4週目は平年並か低い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 10月11日(土)~11月10日(月)

1週目 : 10月11日(土)~10月17日(金)

2週目 : 10月18日(土)~10月24日(金)

3~4週目 : 10月25日(土)~11月7日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は10月17日

3か月予報:10月23日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	11.9	128.3	150.1	14.1	12.7	11.0
新庄	10.2	169.7	94.9	12.7	11.2	9.1
若松	11.0	70.7	115.6	13.6	11.9	9.9
深浦	11.5	158.6	118.1	13.7	12.3	10.5
青森	10.6	117.3	137.9	12.9	11.5	9.5
むつ	10.3	112.4	149.8	12.6	11.2	9.3
八戸	10.7	74.5	161.6	13.1	11.6	9.6
秋田	11.6	166.5	131.6	13.9	12.5	10.6
盛岡	9.7	99.1	144.0	12.1	10.6	8.6
宮古	11.3	96.9	158.5	13.5	12.1	10.4
酒田	12.8	186.4	128.0	15.0	13.7	11.7
山形	11.1	74.2	127.9	13.6	12.1	10.0
仙台	12.9	85.2	155.7	15.2	13.8	11.9
石巻	12.3	91.2	162.8	14.6	13.1	11.2
福島	12.8	80.6	144.3	15.2	13.6	11.8
白河	11.4	88.9	152.1	13.6	12.1	10.4
小名浜	14.3	125.4	163.9	16.4	15.2	13.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.4	84~110	96~106
東北日本海側	-0.6~+0.4	91~107	95~105
東北太平洋側	-0.5~+0.5	68~120	96~106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8~+0.6	-0.7~+0.6	-0.7~+0.6
東北日本海側	-0.8~+0.6	-0.7~+0.6	-0.7~+0.6
東北太平洋側	-0.7~+0.6	-0.6~+0.6	-0.7~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成15年10月10日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(10月11日～11月10日)：

天気は数日の周期で変わりますが、気温の変動が大きいでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(10月11日～10月17日)：

期間の中頃は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日がありますが、その他の日は、高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(10月18日～10月24日)：

天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3～4週目(10月25日～11月7日)：

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側では寒気の影響を受け、しぐれる時期がある見込みです。

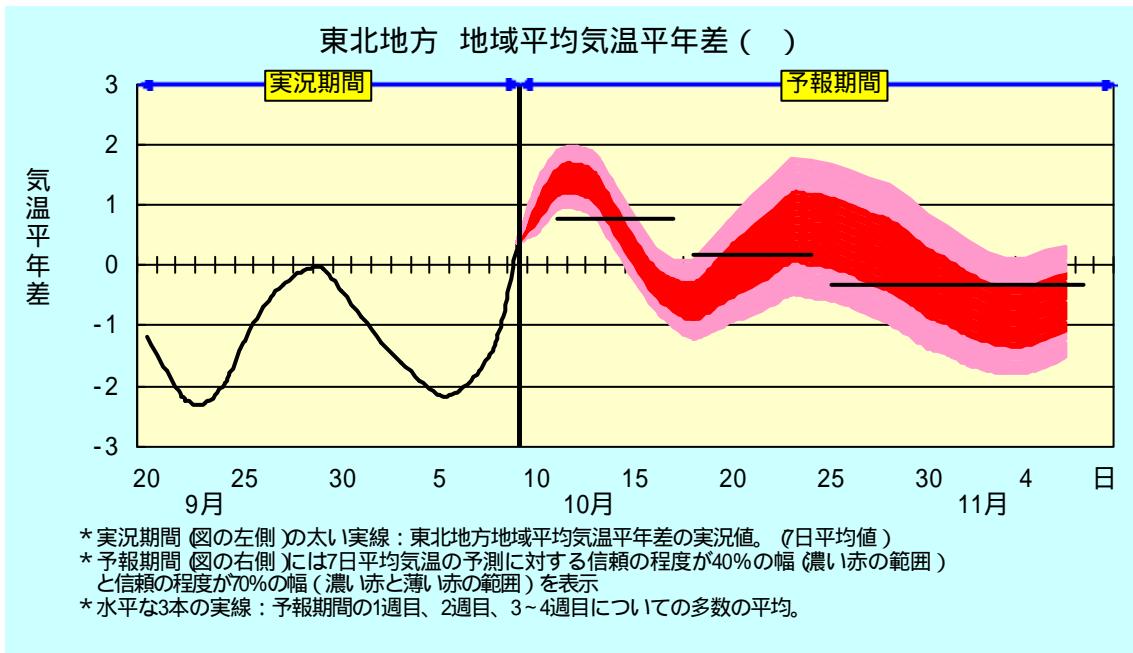
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	12.7日	3.3日	3.5日	5.9日
東北太平洋側	16.6日	3.9日	4.2日	8.5日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「高い」、2週目と3～4週目は「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から1週目を「平年並か高い」、3～4週目を「平年並か低い」に変更する。なお、数値予報の信頼度は小さい。

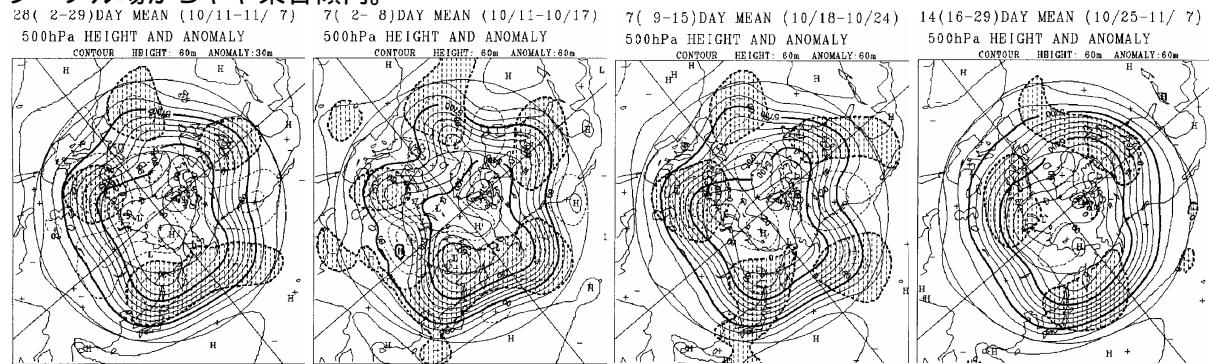


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、オホーツク海の負偏差が北日本や日本海を覆う。極東域での流れはほぼゾーナル場で、天気は数日の周期で変わる見込み。

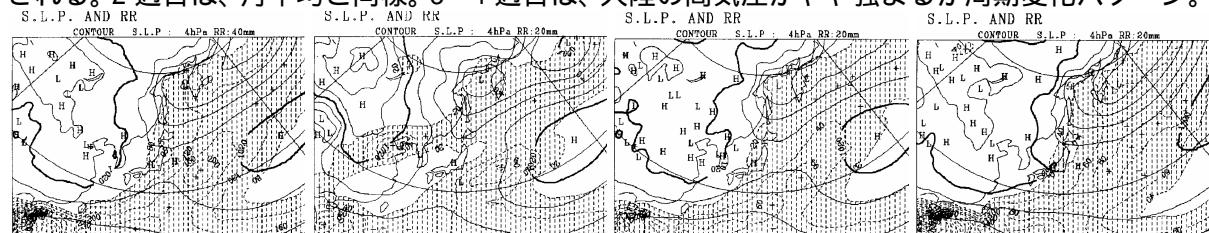
週別に見ると、1週目は、シベリアの負偏差が日本海を覆う。一方、日本の東海上の正偏差が本州を覆う。日本付近は、やや西谷。2週目は、オホーツク海の負偏差が日本付近を覆う。日本付近の流れはゾーナル場。3~4週目は、日本の東海上の負偏差が東日本以北を覆う。日本付近はゾーナル場からやや東谷傾向。



地上気圧と降水量：

月平均では、本州付近の等圧線の間隔はまばらで周期変化パターン。日本の南海上に、まとまった降水域が予想される。

週別に見ると、1週目は、周期変化パターン。日本の南海上と華北にまとまった降水域が予想される。2週目は、月平均と同様。3~4週目は、大陸の高気圧がやや強まるが周期変化パターン。

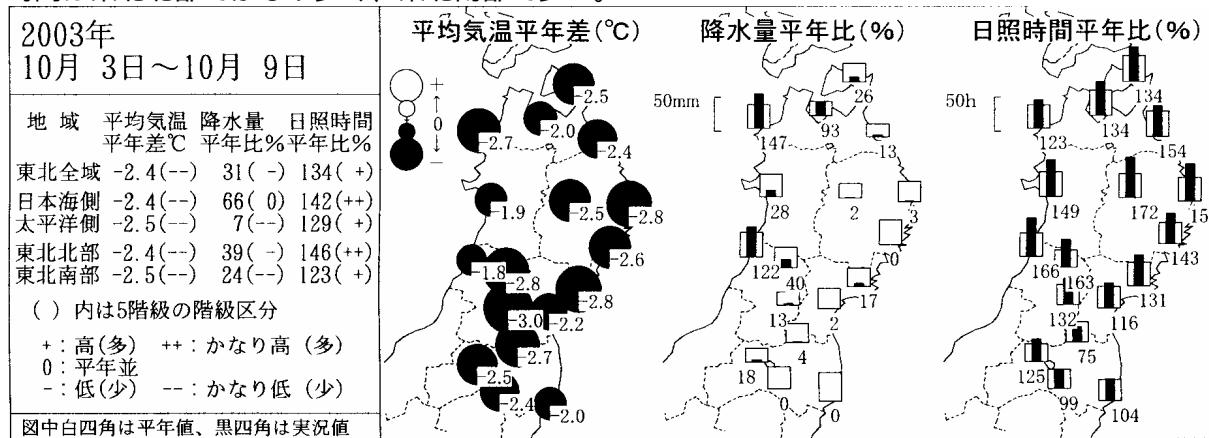


4. 最近1週間（10月3日～10月9日）の天候の経過

期間の前半は、日本付近に南下した寒気の影響により東北日本海側では曇りや雨の日が多かつたが、東北太平洋側では概ね晴れた。期間の後半は、移動性高気圧に覆われ概ね晴れたが、大陸からの寒気移流が続いたため、気温は低く経過した。

なお、4日に飯豊山、5日に八甲田山、岩木山、岩手山、鳥海山の初冠雪を観測した。

平均気温はかなり低い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北北部でかなり多く、東北南部で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)